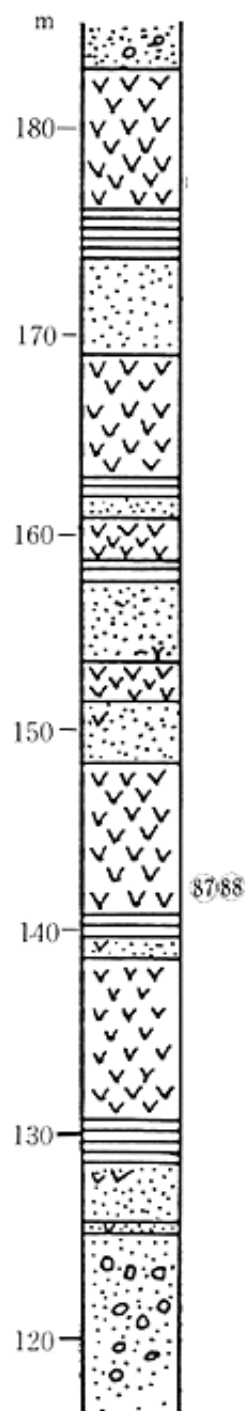


コンプトニア属 *Comptonia* sp./ サンザシ属 *Crataegus* sp.



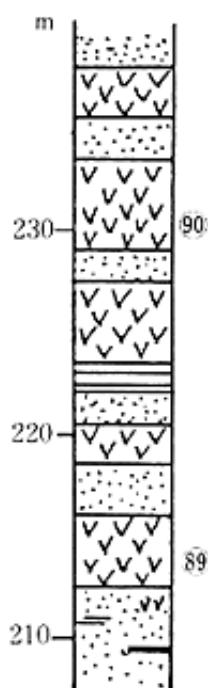
▲発見場所
垂水区名谷町
の柱状図



▲シダ植物を思わせる形だがヤマモモ科である
(コンプトニア属)



■三角形をした多数の切れ込みがあり、
それぞれの裂片は主脈にとどく
(コンプトニア属)



▲発見場所
兵庫区鶴台
の柱状図



▲切れこんだ葉の縁に
のこぎり葉がある
(サンザシ属)



▲大きな切れ込みが特徴
(サンザシ属)

サンザシ属

葉には大きな切れ込みがあるが、葉の縁に沿ってのこぎり葉がある点が、ほかのものと大きく異なる。

白川累層からはよく採集されているが産出量は少ない。

現生のサンザシ属は北半球の温帯に約200種が分布しており、特に北アメリカに多い。日本には2種分布する。

(バラ科 サンザシ属 *Crataegus* L.)

コンプトニア属

全体がシダ植物に似た細長い形の葉であるが、三角形をした多数の裂片に分かれている。それぞれの裂片の切れ込みは主脈にとどんでいる。この属は裂片の数や切れ込みの程度で種を分けている。

コンプトニア属は第三紀中新世中期に特徴的な化石（示準化石）である。多井畑累層と白川累層下部から産出するが、ときには白川累層の上部からも産出する。

現生種は、北アメリカ東部に1種が生えている。

(ヤマモモ科 コンプトニア属 *Comptonia* L'Herit.)



[デジタル化](#) [神戸の自然シリーズ 16](#) [神戸層群の化石を掘る](#) [メニューへ](#)